

令和元年度 第2回 柏市環境審議会 生物部会

地球上の全ての生きものは、様々な個性を持ち、つながり合い支えあって生きている
生きものの豊かな個性とつながりが、様々な恵みを私たちにもたらしている
生物多様性の保全は私たちの生存に不可欠なものである

令和元年12月25日（水）午前10時～
柏市役所 分室1 第一会議室

今回の改訂の方向性と今後の展開

生きもの多様性をより身近なものとして一般市民に広く理解してもらうために

改訂の方向

手賀沼を核にして
柏市の生きもの多様性の
保全に携わる志向の標準化



現行施策の
選択と集中
(携わるアクターの拡張)



既存施策を活用した
一般市民への理解の浸透



生息空間保全の
裾野を拡大

今後の展開

第一期
生息空間保全が行われ
ている地区の取り組みを
活用した裾野の拡大



第二期
様々な主体による生息
空間の保全



第三期
次世代や新たな担い手
への引継ぎ

生きもの生息空間が保全されることによる 市民生活への効果

《柏市での生活に身近なところでは・・・》

- ▶ 手賀沼という地域自然環境の象徴を核にした、地域共有の環境意識の醸成
- ▶ 良好な水辺空間や景観による精神的充足や市民交流の活性化
- ▶ 樹林地や農地など地域の地形が有する保水機能（グリーンインフラ）を利用した社会基盤の形成

など・・・

《地域のことから離れてみると・・・》

- ▶ 酸素の供給や気温・湿度の調整
- ▶ 新たな医薬品や食料開発などへの活用

など・・・

生きもの多様性プランの現状と評価

《実施してきた施策》

「既存ビオトープの支援と活用」, 「ホタル等の人里の昆虫の生息空間の保全と再生」, 「里山活動協定の締結の推進」 etc.

《実施できていない施策》

「重要地区指定の枠組みの確立」, 「生きもの環境影響評価の創設」 etc.



施策の進捗度としては、計画策定当時と比較して現状維持 + α と評価している。一方で、その現状維持の継続にも社会環境の変化や新たな課題の顕在化等により将来性に乏しくなりつつあり、向き合い方や手法の変化が求められる状況にある。

柏市自然環境調査の概要

《前回（2006～2008）調査の状況》

- ▶ 市内に点在する自然度が高い37地点を「保全すべき重要な地域（ホットスポット）」として設定し、重点的に動植物生息調査を実施
- ▶ 調査後に策定した「柏市生きもの多様性プラン」では、生きもの多様性重要地区候補地として、生きもの多様性の保全及び再生に向けた枠組みの基盤としてホットスポットを活用

《今回（2016～2018）調査の状況》

- ▶ 調査地点は前回設定したホットスポット及び平成28年度から運用を開始した柏市谷津保全指針にて保全対象地とした地点を追加した39地点と河川
- ▶ 10年経過での土地形状や植生等の変化に主眼を置いた調査を実施

柏市自然環境調査の結果報告から①

《開発や埋め立ての影響》

- ▶ 開発や埋め立て事業等が発生した場所の植生は大きく損なわれる。
- ▶ 保全区域の周囲で宅地開発が発生し、樹林の面積が縮小すると、その影響により域内の植生にも変化が生じる。

《土地利用の状況による影響》

- ▶ 土地改変の主要な傾向として、市街化区域では開発、調整区域では、埋め立てや荒廃地化
- ▶ 公有地・民有地を問わず、植生の保全を目的とした手入れが定期的に行われているか否かで植生の変化の度合いに差が生じる。

柏市自然環境調査の結果報告から②

《植生の回復が見られた場所も》

- ▶ 一つの市民団体が、荒廃地において重点的に保全活動を行った結果、植生の大幅な回復を図ることができた事例が複数みられた。
- ▶ 例として、船戸古墳群、大堀川南部の小緑地、増尾の森（※調査地点外）



土地改変を防ぎ、保全地区を新たに創るだけでなく、保全に携わる人の裾野が広がらなければ、生きものの生息空間の維持も困難な状況に陥っていく

調査結果に加えて社会状況の変化も

《保全に携わる活動団体が抱える課題》

- ▶ 既存の活動団体の多くで、活動者の高齢化が進行
- ▶ 新たな加入者が少なく、作業に携わる担い手が不足
- ▶ 定年退職の延長化により、新たな参加者の中心であった退職者のボランティア参加が遠のくことに

《行政が抱える課題》

- ▶ 活動団体の解散や活動者の引退による、保全のためのノウハウの散逸
- ▶ 行政課題の拡大により、一つの課題に対して投入可能なリソースの縮小
- ▶ 特定外来生物などによる生活環境への被害等の増加